事業の概況

経営環境

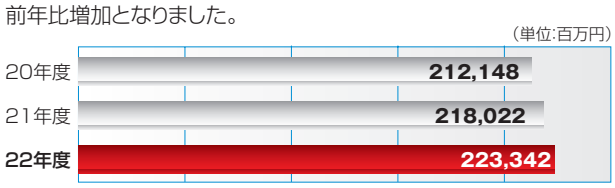
当地域では、美深バイパス及び音威子府バイパス工事の継続、JR名寄駅南の再整備事業、名寄市内における建築工事等々の波及効果が期待されていますが、商業関係においては名寄市・士別市ともに大型店の影響が大きく、地元中心商店街にとっては、依然として厳しい状況が続いております。一方、管内における農作物状況は、米作は例年並みでしたが、畑作は高温多湿から害虫・病害の影響で不作となりました。建築・土木業界においては、マンション・個人住宅建築が地域全体で前年を下回る状況にあり、緊縮財政から公共事業の減少も続いており厳しい環境にあります。

事業の展望と今後の課題

平成23年度は、新3ヵ年計画の最終年となりますが、地域密着型金融への積極的な取組み、金融円滑化への継続した取組み、及び、環境をテーマとした地域活性化への取組み、経営の効率化と更なる組織力の向上が当金庫の今後の課題と認識しております。

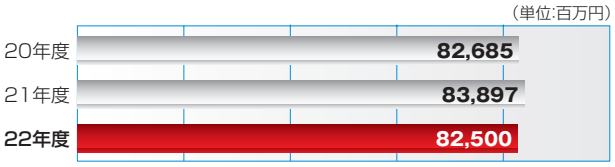
◎預金

預金期末残高は2,233億円となりました。キャンペーン定期、傷害保険付定期積金の販売が順調であったことにより、個人預金が増加しました。法人預金は、資金繰り改善から減少に歯止めがかかり、前年比増加となりました。



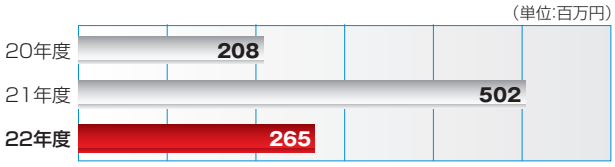
◎貸出金

貸出金期末残高は825億円となりました。地方公共団体の起債の増加や住宅関連融資が増加しましたが、償還分をカバーできず前年比減少となりました。



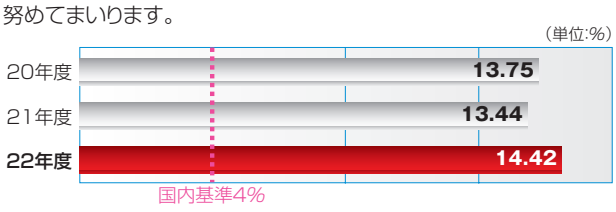
◎当期純利益

市場金利の低下による減収、および国債等売却損の計上があり、当期純利益は265百万円となりました。



◎自己資本比率

自己資本比率は14.42%と前期比0.98ポイント上昇しました。金融機関の安全性を判断する指標である国内基準の4%を十分上回っております。今後も安定した収益を確保し、自己資本の充実に努めてまいります。



当金庫の主要な事業の状況

(単位：百万円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
経常収益	2,982	3,554	4,520	4,527	4,573
経常費用	2,527	3,027	4,238	3,739	4,268
経常利益	455	526	281	787	304
当期純利益	323	352	208	502	265
出資総額	323	744	745	747	748
出資口数（千口）	6,460	14,882	14,915	14,953	14,974
会員数	11,096人	20,417人	20,236人	20,095人	19,936人
純資産額	7,045	11,957	11,240	13,137	13,199
総資産額	130,682	222,931	225,402	233,213	238,234
預金積金残高	122,313	209,303	212,148	218,022	223,342
貸出金残高	52,455	85,304	82,685	83,897	82,500
有価証券残高	50,564	85,199	89,389	104,137	107,071
単体自己資本比率	13.28%	15.07%	13.75%	13.44%	14.42%
出資に対する配当率	4.0%	5.0%	4.0%	4.0%	4.0%
出資に対する配当金（出資1口当たり）	12 2.0円	37 2.5円	29 2.0円	29 2.0円	29 2.0円
常勤役職員数	127人	218人	209人	203人	201人

(注) 1.単体自己資本比率は、信用金庫法第89条において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき算出しております。
2.平成18年度の計数は旧名寄信用金庫の計数を表示しております。